

遠隔医療ネットの活用法や機能紹介

高松でセミナー

医療・介護などの分野でICT（情報通信技術）やモノのインターネット（IoT）を活用する方法について考えるセミナーが7日、高松市内で開かれた。香川大の原量宏特任教授が講演し、自身が開発を主導した遠隔医療ネットワーク「K-MIX+（プラス）」の機能拡充により、一層の

医療の充実が図れる」となどを紹介した。

セミナーは四国総合通信局が毎年開催。自治体職員や県内の情報通信事業者、医療機関の関係者ら約70人が出席した。



自身が開発を主導した「K-MIX+」について話す原特任教授＝高松市内

「K-MIX+」は県内16の中核病院と地域の診療所が電子カルテなどを共有できるネットワーク。原特任教授は、機能拡充の一例として、個人の診療歴やお薬手帳、母子手帳などを一

括管理する「生涯医療記録」について説明。この記録を付け医から専門医のいる中核病院に移った際に検査や説明の重複を避けられるなど、地域全体の医療レベルの向上が期待できる」と強調した。